

都市再生整備計画 事後評価シート
関川東部下門前周辺地区(第二期)

平成27年12月

新潟県 上越市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	上越市		地区名	関川東部下門前周辺地区(第2期)			面積	189ha			
交付期間	平成25年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	1,291.6百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 関川東部下門前土地区画整理事業											
		提案事業	土地区画整理事業助成金事業、まちづくり活動支援事業、事業効果分析調査、有田地区新設小学校建設事業、上越科学館改修事業											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業												
	新たに追加した事業	基幹事業												
		提案事業												
交付期間の変更	当初変更	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響												
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	区域内居住人口	人	1,235	H24	1,430	H27	モニタリング	評価値	1,590	○	あり なし	住民同士が交流、憩うことのできるシンボリックな公園の整備や地域コミュニティの形成、教育・文化施設を活かした居住環境の形成により、良好な生活環境が整備されたことから、居住人口が増加した。	
	指標2	公園整備に対する満足度	%	18	H24	36	H27			65.5	○	あり なし	住民同士が交流、憩うことのできるシンボリックな公園の整備や、公園整備による地域コミュニティの形成(草刈り等)、教育・文化施設を活かした居住環境の形成により、良好な生活環境が整備されたことから、公園の整備に対する満足度が上昇した。	
	指標3	まちづくりへの関心度	人/3年	231	H24	270	H27			1,336	○	あり なし	新旧住民一体となったまちづくり活動により、地域コミュニティの醸成が図られていき、まちづくり活動への一層の住民参画が得られた。	
	指標4	教育・文化施設(上越科学館)の利用回数	人/年	7	H24	70	H27			109	○	あり なし	上越科学館の改修により、地域住民の施設利用回数が上昇した。	
	指標5	教育環境に対する満足度	%	9	H24	18	H27			29.2	○	あり なし	春田新田小学校周辺の環境整備及び新設小学校の造成工事開始により、教育環境に対する満足度が上昇した。	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1													
	その他の数値指標2													
	その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況	・大型遊具のある広く開放的な公園の整備により、子供達が思い切り遊び、走り回れる空間が創出できた。また、科学館の改修により、科学館の利用者数も大きく増加した。これらにより、当地区の居住者でない多くの人々も当地区へ来訪し、地区全体の活性化に繋がった。 ・教育プラザにおいて使用されていない建物を撤去することで、周辺の景観が改善された。 ・新旧住民、住み手、まちづくり活動により、地域コミュニティの醸成が図られていき、まちづくり活動への一層の住民参画が得られた。													
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況									今後の対応方針等	
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
持続的なまちづくり体制の構築	関川東部下門前まちづくり協議会			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									引き続き地域住民のコミュニティ活動(公園の草刈り、花壇の植え込み等)を継続していく。	

様式2-2 地区の概要

関川東部下門前周辺地区(新潟県上越市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 良好な居住環境の提供を図り、快適なまちづくりを実現する。 目標1: 土地区画整理事業の整備により快適な生活環境を確保し、定住人口の増加を図る。 目標2: 地域住民が主体となった「まちづくり」の形成を図る。 目標3: 周辺の教育・文化施設を活かした居住環境の提供を図る。	区域内居住人口	単位: 人	1,235	H24	1,430	H27	1,590	H27
	公園整備に対する満足度	単位: %	18	H24	36	H27	65.5	H27
	まちづくりへの関心度	単位: 人/3年	231	H24	270	H27	1,336	H27
	教育・文化施設(上越科学館)の利用回数	単位: 人/年	7	H24	70	H27	109	H27
	教育環境に対する満足度	単位: %	9	H24	18	H27	29.2	H27

■ 基幹事業 関川東部下門前土地区画整理事業

□ 提案事業 土地区画整理事業助成金事業

□ 提案事業 有田地区新設小学校建設事業

□ 関連事業 関川東部下門前土地区画整理事業

□ 関連事業 教育プラザ改修事業

凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業

上越科学館改修事業

まちづくり活動支援事業

有田地区新設小学校建設事業

関川東部下門前土地区画整理事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 公園の整備や地域コミュニティの醸成により良好な居住環境の提供を図ることができ、定住人口の増加を図ることができた。今後も引き続き良好な居住環境を維持していくよう、まちづくり活動の継続や公園利用に際するルール作りを行っていく。 新設小学校建設事業の進捗により、住民の地区内の教育環境に対する満足度が向上した。 上越科学館の改修により、ハード面での整備が充実し、利用者の大幅な増加につながったが、学級・学校単位での利用は増加していない。今後はソフト面での施策を展開し、学級・学校単位での利用増加を図っていく。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 公園利用ルール等を整備し、利用者の誰もが快適に憩えるような公園整備に引き続き取り組んでいく。 住民主体のまちづくり活動を継続し、暮らしやすいまちづくりを進める。 新設小学校の建設事業を進め、地区内の教育環境の更なる向上を図る。 上越科学館におけるソフト面での施策展開(総合的な学習のモデルケース作成等)を行い、学級・学校単位での利用増加を図っていく。 公園利用者増加等による交通量の増加や、新設小学校の完成に伴う歩行者(小学生等)の増加により、交通事故発生件数が増えいくことが懸念される。主要交差点への信号機設置等を進め、まちの交通安全性の向上を図っていく。また、地区内の小学校での交通安全教育を実施する。 居住人口が増加したことで、地域の地理を知らない人が増加した。防災訓練等の実施により、災害時の対応について周知を徹底する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)	関川東部下門前土地区画整理事業	930.0	A=49.7ha	930.0	A=49.7ha	土地区画整理組合の事業計画の変更に合わせて年次計画の変更を行う。	影響なし。	●	
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度		基準年度		基準年度		モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	区域内居住人口	人	平成27年9月の住民基本台帳人口の町丁目別データを抽出し、該当地区(下門前、塩屋新田町内)の定住人口として整理する。			1,235	H24	1,430	H27	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	1,590	事後評価	○		
指標2	公園整備に対する満足度	%	事業区域内の住民に対する「住民アンケート調査」町内の公園の整備内容に関する満足度の全回答数に占める「たいへん満足している」と「ある程度満足している」の割合とする。			18	H24	36	H27	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	65.5	事後評価	○		
指標3	まちづくりへの関心度	人/3年	平成25年度から平成27年度までの住民参加の会議や勉強会の参加人数を調査する。			231	H24	270	H27	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	1,336	事後評価	○		
指標4	教育・文化施設(上越科学館)の利用回数	人/年	新たに区画整理地内に住まれた方を対象に「住民アンケート調査」上越科学館の利用回数及び累計の利用人数から、教育・文化施設(上越科学館)の利用者数を算出する。			7	H24	70	H27	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	109	事後評価	○		
指標5	教育環境に対する満足度	%	新たに区画整理地内に住まれた方(未就学児、小学生がいる世帯とする)を対象に「住民アンケート調査」当地区の小学校に関する満足度の全回答数に占める「やや満足している」と「満足している」の割合とする。			3	H24	18	H27	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	29.2	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	住民同士が交流、憩うことのできるシンボリックな公園の整備や地域コミュニティの形成、教育・文化施設を活かした居住環境の形成により、良好な生活環境が整備されたことから、居住人口が増加し、1,590人となり、目標数値に達したため「○」とした。	
指標2	住民同士が交流、憩うことのできるシンボリックな公園の整備や、公園整備による地域コミュニティの形成(草刈り等)、教育・文化施設を活かした居住環境の形成により、良好な生活環境が整備されたことから、公園の整備に対する満足度が上昇し、65.5%となり、目標数値に達したため「○」とした。	
指標3	平成25年からの3年間の住民参加による会議、勉強会等への参加者数は1,336人となり、目標数値に達したため「○」とした。	平成24年度までの活動は会議等が中心であったが、平成25年度以降は草刈り等の実活動が増加し、今回の評価値にはそういった活動の参加者数も含まれている。
指標4	上越科学館の改修により、地域住民の施設利用回数が上昇し、109回となり、目標数値に達したため「○」とした。	
指標5	春田新田小学校周辺の環境整備及び新設小学校の造成工事開始により、教育環境に対する満足度が上昇し、29.2%となり、目標数値に達したため「○」とした。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
		基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の数値指標1						モニタリング		
						事後評価		
その他の数値指標2						モニタリング		
						事後評価		
その他の数値指標3						モニタリング		
						事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・大型遊具のある広く開放的な公園の整備により、子供達が思い切り遊び、走り回れる空間が創出できた。また、科学館の改修により、科学館の利用者数も大きく増加した。これらにより、当地区の居住者でない多くの人も当地区へ来訪し、地区全体の活性化に繋がった。
- ・教育プラザにおいて使用されていない建物を撤去することで、周辺の景観が改善された。
- ・新旧住民一体となったまちづくり活動により、地域コミュニティが醸成されていき、「自分たちの地域は自分たちで維持管理を行う」といった意識が芽生え、事業終了後も継続したまちづくり活動が続けられている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
関川東部下門前まちづくり協議会	予定どおり実施した	● 土地区画整理事業により整備された道路清掃や公園等の維持管理について地元住民による組織づくりを目指す。	関川東部下門前まちづくり協議会 ・地域住民主体のまちづくりを実現するために土地区画整理事業の施行地区内の権利者より参加者を募り構成された組織。	地域住民主体のまちづくりが持続していくよう、市は後方支援として協議会からの要請による情報提供に徹する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	担当職員 (都市整備課、教育総務課、上越科学館)	●庁内検討会議 第一回 平成27年10月6日 第二回 平成27年10月19日	都市整備部 都市整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1		指標2		指標3		指標4		指標5		
指標名		区域内居住人口		公園整備に対する満足度		まちづくりへの関心度		教育・文化施設(上越科学館)の利用回数		教育環境に対する満足度		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	
基幹事業	関川東部下門前土地区画整理事業	◎	土地区画整理事業等の公共施設整備により、より良好な居住環境が形成された。本交付金が充当されたことにより、事業運営が安定し、購入しやすい土地価格設定がされたことから住宅販売が促進された。	◎	地区内におけるシンボリックな公園を整備したことにより、地区内住民の憩いの場、遊びの場として魅力的な空間が創出された。また、地区内だけでなく、地区外からも利用者が訪れるようになった。	○	新旧住民一体となり地区内の公園の草刈り等を実施する中で、地域コミュニティが醸成されていき、「自分たちの地域は自分たちで維持管理を行う」といった意識が芽生え、事業終了後も継続したまちづくり活動が続けられている。	—	上越科学館の改修により、展示物が更新され、また体験型の展示物等、新たな機器を増設したことにより、大幅な利用者数増加につながった。	◎	春日新田小学校の通学路含む道路整備等、小学校周辺環境の改善の工事設計中である。また、有田地区新設小学校の建設に向け、造成工事が進捗したことにより、地区内の学習環境の改善の実感につながった。	
	提案事業	土地区画整理事業助成金事業	◎	地区内の科学館の改修や、公園の整備により、地区外からの利用者も多く訪れるようになり、地区全体の賑わいの創出と地区のイメージアップにつながった。	◎	公園管理においては地域住民が協働して行うことで、地域コミュニティの醸成も図られた。	○	—	◎	—	◎	—
	上越科学館改修事業	◎	—		—		—		◎		—	
	有田地区新設小学校建設事業	◎	—		—		—		—		—	
	事業効果分析調査	—	—		—		—		—		—	
	まちづくり活動支援事業	◎	○		◎		—		—		—	
関連事業	関川東部下門前土地区画整理事業	◎		◎		○		—		—		
	教育プラザ改修事業	○		◎		—		◎		—		

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後とも地区のイメージを高める取り組みを展開し、良好な居住環境の形成を図る。	今後とも幅広い世代に利用してもらうために、環境維持を図る。	今後とも継続したまちづくり活動と、更なる地域コミュニティの醸成を推進する。	ハード面の整備が充実したため、今後はソフト面での施策を実施し、科学館の魅力アップを図る。	今後とも引き続き通学路含む道路整備等、小学校周辺環境改善の工事や、新設小学校の建設を進める。
今後の活用	今後とも地区のイメージを高める取り組みを展開し、良好な居住環境の形成を図る。	今後とも幅広い世代に利用してもらうために、環境維持を図る。	今後とも継続したまちづくり活動と、更なる地域コミュニティの醸成を推進する。	ハード面の整備が充実したため、今後はソフト面での施策を実施し、科学館の魅力アップを図る。	今後とも引き続き通学路含む道路整備等、小学校周辺環境改善の工事や、新設小学校の建設を進める。

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	担当職員 (都市整備課、教育総務課、上越科学館)	●庁内検討会議 第一回 平成27年10月6日 第二回 平成27年10月19日	都市整備部 都市整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
①住宅購入層に多い子育て世代が、住宅地に魅力を感じるシンボリックな公園整備が急務である	以前は狭小な公園しかなかったが、シンボリックな公園を整備したことにより、地区内住民の憩いの場、遊びの場として魅力的な空間が創出された。また、地区内だけでなく、地区外からも利用者が訪れるようになった。		<ul style="list-style-type: none"> ・整備された公園は多くの人々が利用しており、球技や散歩等、様々な利用用途が混在している。利用者誰もが快適に公園を利用出来るよう、ルール作りの検討が必要である。 ・人口増加、公園整備、施設の改修等により、人が集まるようになったことで、当地区内の交通量が増え、交差点での交通事故対策の検討が必要である。 ・今後新設小学校の完成に伴い、歩行者(小学生等)が増加することが予想されるため、主要交差点への信号機設置等の検討が必要である。また、地区内の小学校での交通教育の実施が必要である。 ・居住人口が増加したことで、地域の地理を知らない人が増加した。防災訓練等の実施により、災害時の対応について周知が必要である。
②新住民で構成される街においては、住民同士の交流の機会が少なく、周辺の教育・文化施設(教育プラザ)を活かした憩いの場を創出する必要がある	教育・文化施設(教育プラザ)と一体的な土地利用を鑑みた公園の整備により、地区内住民の憩いの場、遊びの場として魅力的な空間が創出された。		
③地区内の教育・文化施設である「教育プラザ」において、使用されていない建物があり、防犯上、景観上の観点からも建物のあり方について問題とされている	教育プラザにおいて使用されていない建物を撤去することで、周辺の景観が改善され、さらに跡地を公園用地として有効活用した。		
④住民が主体となったまちづくりを展開するために、まちづくり検討会を引き続き組織し、コミュニティ形成を図る必要がある	新旧住民一体となり地区内の公園の草刈り等を実施する中で、地域コミュニティが醸成されていき、「自分たちの地域は自分たちで維持管理を行う」といった意識が芽生え、事業終了後も継続したまちづくり活動が続けられるようになった。		
⑤教室不足が問題となっているが、土地区画整理事業等により就学児童数が増加したことによりさらに問題が深刻化する合わせて周辺の教育・文化施設の利便性と機能性を高め、子供が利用しやすい学習環境をつくる必要がある	新設小学校の建設に向け、造成工事が進捗し、目に見える形で地域の学習環境の改善を実感できるようになった。 上越科学館の改修により、展示物が更新され、上越地域ならではのテーマをとりあげた展示コーナーが完成し、学習面での利用に供する部分が増えた。また体験型の展示物等、新たな機器を増設したことにより、大幅な利用者数増加につながった。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・住民主体となったまちづくりの継続的展開	・住民主体となったまちづくり体制が醸成されてきたが、今後もより一層の地域コミュニティ醸成を目指して、引き続き活動を支援していく。	・まちづくり活動支援
	・新設小学校の建設	・引き続き新設小学校の建設を進め、地区内の教育環境の更なる向上を図る。	・有田地区新設小学校建設事業
	・上越科学館におけるソフト面での施策展開	・学級・学校単位での利用促進を図るため、ソフト面での施策展開を進める。	・総合的学習のモデルケース作成

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・公園の利用ルールの作成	・様々な利用用途が混在しているため、公園の利用ルールを作成し、利用者の誰もが快適に憩えるような公園づくりに引き続き取り組んでいく。	・公園の利用ルールの作成
	・交通事故の発生抑制	・人口増加、公園整備、施設の改修等により、当地区内の交通量増加に伴い、主要交差点への信号機設置等を進める。 ・今後新設小学校の完成に伴い、歩行者(小学生等)の増加が見込まれるため、主要交差点への信号機設置等を進める。 ・交通量増加に伴い、地区内の小学校での交通教育の徹底が必要である。	・公安委員会への信号機等設置要望 ・地区内小学校等での交通教育の実施
	・地区内防災訓練等の実施	・居住人口が増加したことで、地域の地理を知らない人が増加した。防災訓練等の実施により、災害時の対応について周知を徹底する。	・地区内防災訓練等の徹底継続

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

特になし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	区域内居住人口	人	1,235	H24	1,430	H27	確定 ●	1,590	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標2	公園整備に対する満足度	%	18	H24	36	H27	確定 ●	65.5	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標3	まちづくりへの関心度	人/3年	231	H24	270	H27	確定 ●	1,336	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標4	教育・文化施設(上越科学館)の利用回数	人/年	7	H24	70	H27	確定 ●	109	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標5	教育環境に対する満足度	%	9	H24	18	H27	確定 ●	29.2	○	あり	→		
							見込み			なし			
その他の数値指標1							確定			あり	→		
							見込み			なし			
その他の数値指標2							確定			あり	→		
							見込み			なし			
その他の数値指標3							確定			あり	→		
							見込み			なし			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	事業の効果により、地区の賑わいが創出され、区域内居住者の各種満足度が向上した。また、整備された公園内の草刈りや花壇整備など、区域内居住者によるまちづくり活動がより活発に行われるようになった。	・居住人口の増加や小学校建設事業の進捗に伴い、通学路の設定や信号機設置等が必要になると想定される。
	うまくいかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	全ての指標にて目標を達成することができ、事業の効果が目標へ適切に反映された。	
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	前回計画時の説明会等の開催から引き続き区域内居住者のまちづくり活動を支援してきたことで、より一層の地域コミュニティの醸成を図ることができた。	・今後の取組においても、初期段階から住民等の関係者に対して適切な情報提供を行うことが望ましい。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事後評価にあたっては、庁内横断組織による「事後評価 庁内検討会議」を実施し、各事業担当課で課題を共有し、改善方法策等について多角的に検討できた。	
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業の予定
未定

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	10月28日(水)～11月11日(水)	10月28日(水)～11月11日(水)	担当課への郵送、 FAX、電子メール、窓口 での意見書	都市整備部 都市整備 課
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報に、住民公表を実施する旨を掲載	10月15日号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市整備課窓口で閲覧	10月28日(水)～11月11日(水)	10月28日(水)～11月11日(水)		

住民の意見	なし
-------	----

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	佐野 可寸志:長岡技術科学大学教授	平成27年11月24日(火)	都市整備部 都市整備課	上越市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	既存組織を改めて委員に委嘱
その他の委員	青木 崇光:国土交通省北陸地方整備局 高田河川国道事務所 調査第二課長 山内 孝信:新潟県上越地域振興局 地域整備部 計画調整課長 井部 辰男:上越市町内会長連絡協議会 岩崎 康文:上越市都市計画審議会公募委員				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標1の目標値設定根拠について質問が挙げられたが、目標値の設定根拠を説明し、委員の理解を得た。 ・指標2の目標値設定について、値が小さすぎるのではとの意見が挙げられたが、設定根拠及び想定以上の効果が発現したことを説明し、委員の理解を得た。 ・指標4の目標値設定について、値が小さすぎるのではとの意見が挙げられたが、設定根拠を説明し、委員の理解を得た。
	実施過程の評価	・適正に実施されたことが確認された。
	効果発現要因の整理	・適正に実施されたことが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民に分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・委員会での意見:公園利用ルールの作成に関しては、“事業によって発生した新たな課題”に入る事項ではないのか。 →まちの課題変化(添付様式5-②)、今後のまちづくり方策(添付様式5-③)に反映した。まちの課題変化、今後のまちづくり方策に反映した。 ・委員会での意見:防災、災害の面からの指標というのは必要ないのか。 →地区の概要(様式2-2)、まちの課題変化(添付様式5-②)、今後のまちづくり方策(添付様式5-③)に反映した。 ・委員会での意見:今後のまちづくり方策について、交通量の増加に関する記述があるが、交通教育等ソフト面の施策を入れてはどうか。 →地区の概要(様式2-2)、まちの課題変化(添付様式5-②)、今後のまちづくり方策(添付様式5-③)に反映した。
	フォローアップ	・特になし。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考してください。